

令和4年度

函館白百合学園中学校

一般入学試験問題(後期日程)

国語

令和4年2月6日(日)実施

注意事項

1. 試験時間は45分です。
2. 問題は□から□まであり、14ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出下さい。

一 次の問いに答えなさい。

問1 次の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① タ<sup>ダ</sup>ちに立ち退いてください。
- ② 消息を<sup>タ</sup>つ。

- ③ 眼科のセン<sup>モ</sup>ンイにかかる。
- ④ 被災<sup>ひ</sup>地にカセ<sup>ツ</sup>住宅を建てる。

- ⑤ ライオンのシ<sup>イ</sup>ク係。
- ⑥ キョウエイ種目でメ<sup>ダ</sup>ルをとる。

問2 次の——線のカタカナを漢字と送りがなに直しなさい。

- ① 突然姿をアラ<sup>ワ</sup>ス。
- ② 喜びを素直にアラ<sup>ワ</sup>ス。

問3 次の——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 清水がわき出る。 ② 竹かごを編む。

③ あの人は真面目な人だ。 ④ 魚市場に行く。

⑤ 河原にテントを張る。 ⑥ すべての決定をあなたに委ねる。

問4 次の読み方をする熟語を二つ答えなさい。

・シリツ

問5 次の漢字の中で、総画数が十画の漢字を、ア～オから二つ選びなさい。

ア 院                      イ 都                      ウ 飛                      エ 孫                      オ 週

問6 次の漢字の部首名をア～コからそれぞれ選びなさい。

- ① 間                    ② 秋                    ③ 郡

ア	おおがい	イ	ふるとり	ウ	うかんむり	エ	もんがまえ	オ	おおざと
カ	こざとへん	キ	のぎへん	ク	あなかんむり	ケ	まだれ	コ	れんが(れつか)

問7 次の□に反対の意味の漢字を入れて、熟語を完成させなさい。

- ① 苦□                    ② □静                    ③ 公□

問8 次の二つの語がほぼ同じ意味になるように、□の中に入る漢字一字を答えなさい。

- ① 永久 || 永□                    ② 良識 || □識

問9 次の各文には、まちがって使われている漢字が一つずつある。それをぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

- ① 正解が分かったので手を上げる。                      ② 周囲の期待に答える。

問10 次のことわざの意味として最も適当なものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。

- ① 案ずるより産むがやすし                                      ② おぼれる者はわらをもつかむ
- ア どんな名人でも時には失敗することがある。  
イ 自分の得にならないのに、あえて危険なことをする。  
ウ 危険な目にあっている者は、どんなものでもたよりにする。  
エ 実際にやってみると心配したほどではなく、思ったよりたやすいものだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、いよいよ小学校入学を迎えたのですが、私は三月三十日生まれなので、**①**ドウキュウセイに比べると体も小さく動作も鈍く、体育の授業の時、制服を着替えるのさえもたまたして、皆から出遅れていました。そのことを母がひどく心配して、家で制服のブラウスのボタンを早く留める特訓をしました。

**1**、不器用な私は母の期待にこたえようとすればするほど、ボタンを掛け違えたり、**1**指先が言うことをきかなくなったりしてしまう。着替えだけでなく、給食を食べるのも、算数の問題を**②**解くのも、粘土でなにかを作るのも、何もかもが皆より遅い。そういう愚図な自分が惨めで仕方ありませんでした。

そんなある時、私はブラウスを着ながら一つのお話を作りました。ボタンとボタンホールは**2**とっても仲良しで、いつも**ア**人で**イ**つ。朝、女の子がブラウスを着ると、ボタンとボタンホールは「おはよう」と挨拶をして、二人で一日中お喋りをしている。**2**ある日、糸が切れ、ボタンが外れてコロコロと転がってしまいました。一人ぼっちになったボタンホールは嘆き悲しむ。一方、ボタンはそれまで行ったこともなかった、ベッドの下やタンスの**③**ウラを転がって、いろいろな冒険をする。ほどなくして、お母さんがボタンを発見して、またブラウスに縫い付けてくれる。仲良しの二人は無事**3**再会を果たし、ボタンは自分の冒険をボタンホールに話して聞かせてあげました。めでたしめでたし……というお話です。タイトルは「ボタンちゃんとボタンホールちゃん」というものでした。

私はそれからボタンをはめるたびに、そのお話を頭によみがえらせるようになりました。**3**、ボタンが上手くはめられないのは、ボタンちゃんが冒険に出ているからで、自分のせいじゃないと言い訳できるのです。そのことで、愚図な自分を惨めに感じなくて済むようになったのです。不器用で小さな自分の内側に物語を据えることで、自分の外側にある現実のありようを変化させた。これは、私が自分の作った物語によって、自分を救った最初の経験となりました。

数学者バリー・メイザーは、二乗すると負になる**④**不思議な数、虚数を具体的にイメージするにはどうしたらいいか、それは詩を読んだ時イメージが浮かぶことと、**4**どこが似ていてどこが違うのか、について考察した本『黄色いチューリップの数式』をあらわしていま

す。この本の中でバリーは、「想像力は、思いのままに使える召し使いです」と言っています。小学一年生の私は、※拙いながらも、まさに想像力を使って、自分の愚図の責任を召し使いに押し付けたわけです。

やがて両親も、この子は本が好きなのだろうということが分かったらしく、世界こども文学全集を毎月買ってもらえることになりました。その頃（四十年近く前ですが）、誕生日でもクリスマスでもないのに、何かを買ってもらえるというのは、私にとって大変贅沢なことでした。毎月、オレンジ色の表紙の分厚い本が送られてくるのが、待ち遠しくなりませんでした。第一回の配本は『家なき子』でした。当時の印刷技術があまりよくなかったからでしょうか、本を開くと、私をじらすかのように表紙と一ページめがくっついていて、それを5 わくわくしながらそおとめくる時の気持ちと、なぜか立ち上がってきた化学ヤクヒンのような匂いをよく覚えていきます。たぶんインクの質が悪くて、そのような匂いが残っていたのではないのでしょうか。

（小川洋子 「物語の役割」）

※拙い：技術が未熟な様子。下手なこと。

※ 設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問1 線①～⑤のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問2 1 3 の中で「ところが」が入らないところを数字で一ヶ所答えなさい。

問3 ———線1「指先」について答えなさい。

(1)「指」と「先」の関係として最も適当な説明を、ア～エから選びなさい。

- ア 反対や対になる意味の字を組み合わせたもの。
- イ 同じような意味の字を組み合わせたもの。
- ウ 上の字が下の字の意味を説明(修飾)しているもの。
- エ 下の字から上の字へ返って読むと意味がよくわかるもの。

(2)二字の関係が「指先」と同じ熟語を、ア～エから選びなさい。

- ア 読書
- イ 大小
- ウ 豊富
- エ 花園

問4 ———線2「とつても仲良しで、ア人でイツ」について答えなさい。

(1)ア、イに入る漢数字をそれぞれ答えなさい。

(2)「とつても仲良し」という意味をもつことわざを、ア～エから選びなさい。

- ア 豚ぶたに真珠しんじゆ
- イ 石の上にも三年
- ウ 竹馬の友
- エ 犬猿けんえんの仲



問5 ——— 線3 「再会」と同じ読み方をする熟語を考えて一つ答えなさい。

問6 ——— 線4 「どこが似ていて」を言いかえた次の文の□に入る二字熟語を、【】の漢字を組み合わせさせて答えなさい。

どこが□□していて

【通 同 共 類 和】

問7 ——— 線5 「わくわく」について説明した次の文章の【①】～【④】に当てはまるものを、それぞれア、イから選びなさい。

「わくわく」とは「楽しい期待などで落ち着かない様子」をあらわした言葉であり、このような言葉を擬態語ぎたいごという。一方、「どたどた」は「大きな足音や、室内で暴れまわる様子」をあらわす言葉で、こちらは擬音語ぎおんごという。擬態語は音が【①ア出ている・イ出していない】が、擬音語は音が【②ア出ている・イ出していない】。だから、「犬がわんわんほえる」の「わんわん」は【③ア擬態語・イ擬音語】で、「目がぐるぐる回る」の「ぐるぐる」は【④ア擬態語・イ擬音語】だと言うことができる。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』とは、アメリカの作家ポール・オースターがラジオのリスナーから集めた体験談からおもしろいものを選んで編集した本のことです。筆者は前の章でその本から二編の体験談を紹介した。以下はその続きの文章である。

1 『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』から二編紹介しましたが、そこからもわかっていただけるように、作家はその作品の1から百まで、全部自分一人の責任で書いているのだから、自分の思いどおりにできるじゃないか、と思われるかもしれませんが、実はそうではありません。やはり数学者が感じているようなサムシング・グレートが存在し、目に見えない偉大な何かの導きがなければ、小説も生まれてこないのです。あの日、たまたまつけていたテレビに、なぜ藤原正彦先生が映っていたのか。なぜ先生は涙目でハミルトンの失恋について語っていたのか。220と284がなぜ友愛数なのか。『博士の愛した数式』を読んでくださった方はわかると思いますが、江夏豊の背番号がなぜ完全数28だったのか。それはもうすべて小説を書いた本人、私自身にも答えが出せないのです。

2 「こつちへいこう、こういうふうの世界を広げてゆこう」という、物語自身が持っている力に導かれたいと小説は書けないと思います。一人の作家の頭のなかで考えることのできる程度はたかだか知れていますので、作家が先頭に立って登場人物たちをぐいぐい引張って書くような小説は、私はむしろおもしろくないと思っています。自分の思いを超えた、予想もしない何かに助けてもらわないと、小説は書けません。

3 ですから私はときどき、小説を書きながら、書き手であるはずの自分自身がいちばん後ろを追いかけているな、と感じます。『博士の愛した数式』でも、私よりも前に博士や家政婦さんやルート君がいる。自分よりも前にすでに完全数や友愛数がある。そういうすでにあるものの後を一所懸命追いかけて行って、振り返ったときに、自分の足跡が小説になっているという感じです。

3 自分が全能の神になって登場人物を操り人形のように操っていたのでは、自分の頭のなかに納まる話しかできません。これからどうしたらいいのか、この次の場面、この次の一行をどうしたらいいのかと、自分の頭のなかだけでああでもないこうでもないと考えはじめ

ると、どんどん視野が狭せまくなって行き詰まってしまう。自分の思いを突き抜けて、予想もしなかったようなところへ小説を運んでいってくれるのは、自分以外の何かであるんじゃないか。そうになると、**4** 小説家も数学者も同じだと思うのです。

**5** フランス人作家フィリップ・ソレルスは「小説と極限の実験」という講演の中で、次のように述べています。

「書くこと、文章に姿をあらわさせること、それは特権的な知識を並べることではない。それは人皆が知っていながら、誰ひとり言えずにいることを発見しようとする試みだ」

**6** まさにその通りです。数学者が、偉大な何者かが隠した世界の秘密、いろいろな数字のなかにこめられた、すでにある秘密を探そうとするのと同じように、作家も現実のなかにすでにあるけれども、言葉にされないために気づかれないでいる物語を見つけ出し、鉱石こうせきを掘り起こすようにスコップで一所懸命掘り出して、それに言葉を与えるのです。自分が考えついたわけではなく、実はすでにそこにあつたのだ、というような※謙虚な気持ちになったとき、**5** 本物の小説が書けるのではないかという気がしています。

**7** 作家になるためには想像力、空想の力が必要だと言いますが（もちろんそれが必要なんですけれども）、むしろ現実を見る、観察する、そういう視点も非常に重要になってくると思われます。（中略）

**8** 私のいま理想としている小説は、その小説のなかに出てくる登場人物が「ここにいるからね」と声を発して、小説の中の実在しない人物と現実にいる読み手が目配めくばせを交かわせるような小説です。「お互たがいほんとうに現実を生きていくのはいろいろたいへんな、困難なことだけれども、とにかく僕はここにいるからね」「私もここにいるからね」と言って、声なき声で目配せを交かわせるような作品を書きたい。それはたいへん難しいことで、まだまだ修行しゆぎやうが足りませんが、謙虚な心をもって、皆さんに無言で目配せできるような作品を書いていきたいと願っています。

**9** 小説というのは言葉で書いてあるのに、言葉にできない感動を与えなければいけない不思議なものです。**6** 矛盾むじゆんに満ちた困難な仕事ではありませんが、数学者のように、現実の前で※頭を垂れるような気持ちで書きつづけていきたいと思います。

(小川 洋子 「物語の役割」)

※ 設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

※藤原正彦：数学者、エッセイスト

※友愛数：その数を除いた約数の和が、お互いの数になる組み合わせ。

※完全数：自分自身を除いた約数の和が、自分自身になる数。

※謙虚：自分をえらいものと思わず、素直に学ぶ気持ちがある様子。ひかえめな態度。

※頭を垂れる：頭を前に下げる様子。謙虚さやへりくだった様子をあらわす。

問1 ——— 線1 「小説を書いた本人、私自身にも答えが出せないのです。」とあるが、この理由について説明した次の文の  に当て

はまる言葉を、本文中から十四字で書きぬきなさい。

小説は、作者が全てを思い通りにできるわけではなく、

によって生まれるから。

問2 次の文は、——線2「書き手であるはずの自分自身がいちばん後ろを追いかけている」とはどういうことかについて説明したものである。[4]の段落から当てはまる言葉を探し、[ア]は十二字、[イ]は三十五字以上四十字以内の最初と最後の五字を書きぬきなさい。

作家は [ア] 十二字 [ ] をするのではなく、自分の思いを超えた予想もしない何か [イ] 三十五字以上四十字以内 [ ] のあとから追いかけて書くということ。

問3 ——線3「自分が全能の神になって登場人物を操り人形のように操って」とあるが、そのようにして書いた小説とほぼ同じ意味の三十二字の一続きの部分を探し、最初と最後の五字を書きぬきなさい。

問4 次の文は、——線4「小説家も数学者も同じだ」について説明したものである。[ア]、[イ]、[ウ]に当てはまる言葉を [ ] 内の字数で本文中から書きぬきなさい。

小説家は言葉にされていない [ア] 二字 [ ] を、数学者は数字の中にこめられた [イ] 二字 [ ] を見つけ出そうとするが、どちらも [ウ] 五字 [ ] ものを探そうとするという点では同じだということ。

問5 ———線部5「本物の小説が書ける」とあるが、筆者が作家として本物の小説を書くために必要だと考えているものを五字以上十  
字以内で二つ答えなさい。

問6 ———線部6「矛盾」とは、前後の内容がくい違っているという意味だが、筆者は小説のどのような点が矛盾していると考えてい  
るか。四十字以内で書きなさい。

問7 本文の内容と合わないものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア 筆者は、作家は物語についての責任を全部負<sup>お</sup>っているのだから、結末まで見通している必要があると考えている。
- イ 筆者は、自分の頭の中だけで物語を考えると、展開が行き詰まってしまい面白い話は書けないと考えている。
- ウ 筆者は、作家は現実の中に存在しているのに気づかれていない物語を探し出し、それに言葉を与えるものだと考えている。
- エ 筆者が理想とする小説は、登場人物が発する声なき声によって、登場人物と読み手が交流できるような小説である。

国語

受験番号

氏名

一

問 1 ①  タダ  ち ②  タ  つ ③  センモンイ

④  カゼン ⑤  シイク ⑥  キョウエイ

問 2 ①  アラクス ②  アラクス

問 3 ①  清水 ②  編 ③  む ④  魚市場 ⑤  河原 ⑥  真面目 委

④  ⑤  ⑥  ねる

問 4   問 5   問 6 ①  ②  ③

問 7 ① 苦  ②  静 ③ 公  問 8 ① 永  ②  識

問 9 ① 誤  ↓ 正  ② 誤  ↓ 正

問 10 ①  ②

小計

二

問 1 ①  ②  く ③  ④  ⑤

問 2  問 3 (1)  (2)  問 4 (1)  ア  イ  (2)  問 5

問 6  問 7 ①  ②  ③  ④

小計

三

問 1

問 2 ア

イ 最初  最後

問 3 最初  最後

問 4 ア  イ  ウ

問 5

問 6

問 7

小計

**国語**

受験番号

氏名

100

一 問 1 ① 直<sup>タダ</sup>ち ② 絶<sup>タ</sup>つ ③ 専門医<sup>センモンイ</sup>

④ 仮設<sup>カセツ</sup> ⑤ 飼育<sup>シイク</sup> ⑥ 競泳<sup>キョウエイ</sup>

問 2 ① 現す<sup>アラワス</sup> ② 表す<sup>アラワス</sup>

問 3 ① しみず<sup>清水</sup> ② あむ ③ まじめ<sup>真面目</sup>

④ うおいちば<sup>魚市場</sup> ⑤ かわら<sup>河原</sup> ⑥ ゆだ<sup>委ねる</sup>

問 4 私立 市立 問 5 ア エ 問 6 ① エ ② キ ③ オ

問 7 ① 苦楽 ② 動静 ③ 公私 問 8 ① 永遠 ② 常識

問 9 ① 誤上 ↓ 正学 ② 誤答 ↓ 正心

問 10 ① エ ② ウ

小計 30

二 問 1 ① 同級生 ② とく ③ 裏 ④ ふしぎ ⑤ 薬品

問 2 3 2点 問 3 (1) ウ (2) エ 3点×2 問 4 (1) ア ② イ ③ 一 (2) ウ 3点×2 問 5 再開(最下位) 3点

問 6 共通 3点 問 7 ① イ ② ア ③ イ ④ ア 2点×4

小計 33

三 問 1 目に見えない偉大な何かの導き 3点

問 2 ア 自分の頭の中かに納まる話 3点

イ 最初自分の思い最後つけてくれる 3点

問 3 最初作家が先頭最後よゆうな小説 4点

問 4 ア 物語イ秘密ウすでにある 3点×3 (現実を観察する視点)

問 5 謙虚な姿勢 現実を見る視点

問 6 言葉で書いてあるのに、言葉にできなない感動 6点

問 7 ア 3点

小計 37